



リマーク

パラタルバーの設定位置の決定法

大岡 博英

東京都歯科技工士会所属
歯科技工士生涯研修1期修了
日技学術部員
ナックデンタルクリエイト



上顎の欠損歯列をパーシャルデンチャーで補綴修復する際、メジャーコネクターであるパラタルバーを使用することは数多く見られる。しかし、臨床的には、そのパラタルバーの設定位置は今ひとつ明確ではない。私たち歯科技工士は成書において、口蓋中央の深い部分が最も異物感が少なく、装着感が良いと学んできた。果たしてそうであろうか？

生田龍平氏¹⁾の実験からも、ドンダースの空隙(下顎安静位において、口唇が閉じているときに舌背と口蓋との間に生じる空隙、食物嚥下時の通路)には個人差があり、まちまちであることは明らかである。

本来であれば、テンポラリーレストレーション等のイニシャルプレパレーションにより、設計を決定することが理想的である。といて、仮義歯を二つも三つも製作することは現実的には困難であり、患者さんにも歯科医師にも負担が大きい。また、歯科医師が口腔内の触診等を行ったとしても、嘔吐反応等は診断できるであろうが、装着感までの判断は難しい。

そこで筆者は、スタディーグループの仲間達とともに、単純なことであるが写真に示すような基礎床を用いて、患者さん固有のより良いパラタルバー設定位置を探る方法を考えてみた。

fig.1



fig.1：上顎片側遊離端欠損の欠損補綴。設計線(床外形線)は仮義歯の圧痕を表記したものの。この模型は、上顎右側犬歯修復のための作業模型＝磁性アタッチメント付コーピング(ハウジング製作予定)。後に機能印象をして金属床義歯を製作する。

fig.2



fig.2：通法によると、このような中パラタルバーの設計になることが多い(間接維持装置は仮義歯とは部位変更)。この装置試適は、設計決定前の診療のどの段階で行っても良い。

fig.3



fig.3：このように、後パラタルバーの設計も考えられる。ただし、第二大臼歯口蓋側あたりは異物感を訴える患者さんが多いので、注意が必要である。

fig.4



fig.4：実はこの患者さん、歯科医師が印した花丸マークでも分かるように、前パラタルバーの設定位置が最も良いとのことであった。発音にも影響しそうな口蓋皺襞上の設定位置は、通常あまり選択しない。ちなみに、技工料金は咬合床三つ分を請求させていただいている。

[参考文献]

1. 生田龍平他：口蓋板の装着体験，歯科技工20（1）：21～50，1992.

●問い合わせ先

ナックデンタルクリエイト
大岡 博英 (おおおか ひろひで)
TEL・FAX 03-3727-3995
e-mail:knackdental@yahoo.co.jp